

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価シート

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

|      |        |     |
|------|--------|-----|
|      | 直近5年平均 | 5年後 |
| 入学者数 | 16名    | 23名 |
| 就農率  | 34%    | 45% |

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

【評価区分・5段階】

- 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
- 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
- 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
- 2:当初目標の半分程度達成した(41~60)
- 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

| 本年度の重点目標   | 現状と課題   | 具体的方策・評価指標等  | 本年度の取組  |  | 内部評価 | 次年度以降の課題と取組  | 外部評価 | 外部評価者コメント  |   |   |   |  |
|--|---|--|---|--|------|--|------|--|---|---|---|--|
|  |   |  | 計画  | 実績   |      |  |      |  |   |   |   |  |
| 1 学生の確保  | <p>○平成以降入学者の定員割れが続いている</p> <p>○直近5年は年平均16.4名と低迷(受験者数20.4名)</p> <p>定員40名<br/>↓<br/>実績:16.4名(R2~6平均)</p> <p>出身高校の属性(R2~R6)<br/>農業37%、総合19%、普通37%、商工業7%</p> <p>○県外からの入学者は増加<br/>直近5年は毎年県外からの学生が入学<br/>年平均4.2名。</p> <p>(県内外の属性(R2~R6))<br/>県内74%、県外26%</p> <p>○アグリビジネス学科(H29新設)の入学者も低迷</p> <p>定員10名<br/>↓<br/>R6年度5名(H29:8名、H30:5名、R1:0名、R2:4名、R3:2名、R4:3名、R5:0名)</p> | <p>【令和7年度入学生:20名確保】<br/>園芸学科:15名<br/>アグリビジネス学科:5名</p> <p>○高校へのアプローチ<br/>・学校訪問<br/>・資料送付<br/>・高校職員との関係会議でPR</p> | <p>○学校紹介と学生募集活動の展開<br/>・受験者数の確保 23名以上(入学生/受験生=約9割)</p> <p>○教育委員会との連携による高校訪問<br/>(事前に県立学校教育課長から県内全高校へ協力依頼文を发出のうえ、集中訪問を実施)<br/>↓<br/>学校訪問巡回数 4巡<br/>6月、9月、11月、1月<br/>延べ106校(県内87校 県外19校)</p> <p>学校パンフレット、農学部紹介チラシ、オープンキャンパス案内を持参<br/>園芸学科、アグリビジネス学科それぞれの特徴を巡回説明</p> | <p>受験者数 16名</p> <p>学校訪問巡回数<br/>延べ98校(県内76校 県外22校)</p> <p>1巡 6~7月 48校<br/>2巡 9~11月 20校<br/>3巡 2月 30校</p> <p>計画どおり説明を行った</p> | 3    | <p>・非農家出身の受験生は増加傾向で就職に関心が高い</p> <p>・本校の多彩な就職先や高い就職率を強調</p> <p>・2~3年の進路指導時期を重点に県内外の高校に巡回説明を行い、受験者数を確保する</p> | 3    | <p>高校訪問巡回はとても重要。学生募集に向けての活動は評価できる。引き続き活動を続けてほしい。<br/>農業は夢のある職業だということをきちんと伝えていくのが大学だけではなく我々の仕事でもある。</p> |   |   |   |  |
|  |   |  | <p>・募集要項、学校案内等の送付(4月)<br/>募集要項 学校案内<br/>県内 48校 204部 245部<br/>県外 292校 268部 330部<br/>計 472部 575部</p> <p>・教育関係者への出席、農大概要説明(校長、副校長)<br/>教頭会議 5月13日 校長説明 募集要項 110部を配布<br/>進路指導部長会議 5月17日 教授説明 70部を配布<br/>進路指導研究会等 7月上旬 副校長説明</p>                                       | <p>計画どおりに実施</p> <p>教頭会議 5月13日 校長説明 110部配布<br/>進路指導部長会議5月17日 教授説明 70部配布<br/>進路指導研究会等7月2日 副校長説明 70部配布</p>                    |      |  |      |  | 3 | <p>HPやSNS(インスタ)、学校訪問等でオープンキャンパスの実施を周知</p> | 3 | <p>SNSでの広報活動は効果的である。インスタ等でのPRを継続して実施をしていただきたい。</p> |
|  |   |  | <p>○チラシ配布やHPなどにより事前告知を強化<br/>・7、9に3回開催(7/7(日)、7/28(日)、9/8(日))<br/>・3月に1回実施</p> <p>・参加者に「入試想定問題」を配布するとともに、職員からスマート農業、GAP演習の取組みを、学生から農大生活等を紹介<br/>・卒業生から農林大に入学してよかったことや役に立ったことを紹介<br/>・オンラインによる申込フォームによる利用者の利便性の向上と業務を効率化</p>                                       | <p>計画通り実施</p> <p>3月16日(日)実施</p> <p>計画通り実施<br/>今年度よりオンラインでの申込を実施。半数以上がオンライン申込で利便性の向上ができた</p>                                |      |  |      |  |   |   |   |  |
| <p>○県内農業系4高校との連携強化<br/>・「高大連携プロジェクト」(R3新規事業)の推進<br/>農業系4高校(紀北農芸、有田中央、南部、熊野)と農林大学校が専門的な授業等で連携することにより、5年一貫の教育システムを構築する事業<br/>○令和7年度入学生受入体制の構築<br/>○令和8、9年度入学生のプロジェクト研究テーマの検討</p> <p>○高校からの依頼に基づき、リモート発表を開催<br/>プロジェクト研究を発表紹介(本校発表会 12/13)<br/>卒業論文発表会(2/13)</p> <p>○出前授業の実施<br/>・本校職員が高校からの依頼内容に基づき高校での授業を実施<br/>「和歌山県の農業」<br/>「農業の魅力と農林大学校」<br/>「就農支援制度」等</p> | <p>・職員が農業系高校を訪問し、3年生の進路状況や令和7年入学生のプロジェクト取組状況確認、令和8年以降の接続プロジェクト(テーマ、人数等)について打ち合わせ。特別推薦入試実施後、受入学生を想定したプロジェクト学習について校内で協議<br/>・令和7年度入学に向け、「特別推薦入試の考え方」、「授業料免除要件」等、経営支援課と協議を行い、手数料条例の改正を準備<br/>・農業系高等学校、農業研究機関交流会及びわかやま農業教育推進会議に出席</p> <p>・未実施</p>   | <p>1校で実施<br/>2月30日:熊野高校 1年生 160名</p>   | <p>《評価》<br/>令和7年度特別推薦入学生受入に向け、プロジェクト学習の準備、条例の改正等準備を行った。</p>   |  |      |  |      |  |   |   |   |  |

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価シート

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

|      |        |     |
|------|--------|-----|
|      | 直近5年平均 | 5年後 |
| 入学者数 | 16名    | 23名 |
| 就農率  | 34%    | 45% |

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

- 【評価区分・5段階】
- 5:当初目標を十分達成した(101%以上)
  - 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)
  - 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)
  - 2:当初目標の半分程度達成した(41~60)
  - 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

| 本年度の重点目標    | 現状と課題  | 具体的方策・評価指標等   | 本年度の取組  |  | 内部評価 | 次年度以降の課題と取組   | 外部評価 | 外部評価者コメント  |
|-------------|--|---|---|--|------|---|------|--|
|             |  |   | 計画  | 実績   |      |   |      |  |
|             |  | ○アグリビジネス学科のPR   | ○農学部パンフレット、アグリビジネス学科PR資料配布説明<br>アグリビジネス学科生の確保のため、カリキュラムをわかりやすく説明し、農業経営が学べることを知ってもらう   | ・県内外の学校訪問等で各学科の違いや強みを進路指導を教諭に説明【再掲】<br>教頭会議 5月13日 校長説明 募集要項 110部を配布<br>進路指導部長会議 5月17日 教授説明 70部を配布<br>進路指導研究会等 7月2日 副校長説明 70部配布   | 3    | ・引き続き学校訪問等でアグリビジネス学科の特徴を丁寧に説明<br>・プロジェクト学習(農大ブランド商品開発)を通じた取組を紹介   | 3    | 引き続きPRをしてほしい。高大連携した商品開発を検討いただきたい。<br>地域の企業とコラボしていくような取り組みも必要では。ぜひ農林大学校のヒット商品を考えてほしい。     |
| 2 教育活動の充実強化 | ○スマート農業の振興など農業を取り巻く情勢は刻々と変化<br>○一方、本校学生の属性も多様化<br>・学生の属性(R2~R6)<br>専業農家 20%<br>兼業農家 19%<br>非農家 61%<br>(H27~R1)<br>専業農家 19%<br>兼業農家 29%<br>非農家 52%<br>・出身高校(R2~R6)<br>農業37%、総合19%、普通37%、商工業7%<br>○学生間に基礎学力の開きがある<br>○資格取得率(R1~R5実績)<br>・大型特殊自動車(農耕用):100%<br>・園芸技術:79%<br>・農業技術検定2級:18%<br>・農業簿記3級:43%<br>・危険物乙4:14%<br>・毒劇物:2%<br>・狩猟免許(わな猟):84% | ○時代の流れに即した授業の実践<br>・授業期間の確保   | 【授業期間の組換え】<br>○スマート農業機械演習《1年 前期:12時限、後期:8時間》<br>スマート農機の操作技術等を早期に習得させるため、演習を前期に集中して実施する。<br>→専攻実習で農業散布ドローン、リモコン草刈機、スピードスプレー等を活用を高めることで、実践力を強化する<br>○GAP(農業生産工程管理)の実践教育《2年 48時限》<br>国庫事業を活用し、令和2年度「カキ」、3年度「トマト」のグローバルGAPの認証継続<br>GAP演習を通じて、認証取得に向けた実践教育を実施する<br>○特別講義<br>農大学生会社の店舗運営、組織運営等に学習領域を広げた授業を実施<br>○試験研究機関との連携による卒業論文指導<br>R6年度新入生から実施 | ・1年生を3班に分けて、4月、5月に演習を実施、12月には、農業散布ドローンのやGPSによる農業支援システムを使った田植機の演習を行った。<br>計画どおり実施<br>・2年生10名に対し、起業の実践的な学習を実施<br>株式会社設立手続きや財務・労務管理、容器デザイン等、外部講師による演習・講義を実施<br>・「イチゴの育種」をテーマに、農業試験場と連携。 | 3    | ・スマート農業機械演習は、引き続き、1年生時で演習を実施<br>・引き続き、1年次の科目「GAP」で基礎を学び、2年次の「GAP演習」を通じて認証取得に向けた実践教育を実施<br>・学生会社については、運営にかかる知識の習得に加え、会社運営の実務を学生が適切に実施できるよう指導<br>・特別講義については、県内若手や先進農家等による講義やワークショップ等を開催、未来の農業を考える時間とする<br>・イチゴの品種育成に向け、担当学生への卒論指導とともに引き継ぐ学生(令和7年入学生)への指導も実施 | 4    | 農大学生会社について、学生のモチベーションを上げる方策を一考してください。  |
|             |  | ○資格取得の拡充と資格取得率向上を目指した取組<br>・資格取得率<br>大型特殊自動車(農耕用):100%<br>園芸技術(2年):80%<br>農業技術検定2級(2年):30%<br>農業簿記検定3級(2年):70%<br>危険物(1年):40%<br>毒劇物(1年):30%<br>狩猟免許【わな猟】(2年):90% | ○ドローンのオペレーター講習による資格取得《新規》<br>受講者3名予定<br>○園芸技術、農業技術検定<br>資格試験直前の集中講義を編成「資格取得対策」を実施<br>模擬試験の実施<br>○農業簿記検定<br>模擬試験の実施<br>○危険物・毒劇物<br>外部講師を招聘(R1~)<br>不合格者に対し再チャレンジへ誘導(R2~)<br>職員による補習授業の実施(R2~)<br>過去問題を徹底解説し、個別指導の強化で対応   | 3名が受講予定。3月17~19日にDアカデミー近畿和歌山校で実施予定<br>計画通り実施<br>計画通り実施<br>計画通り実施   | 3    | ・ドローンオペレーター講習による資格取得の受講予定者を5名予定<br>・資格試験直前の集中講座を引き続き実施<br>・園芸技術員資格試験はR6年度で廃止。1年生の資格取得対策(毒物劇物取扱者資格、危険物取扱者資格:後期14時限)の授業とする。<br>・1年時から受検できるよう農業簿記の授業内容を変更<br>・他の資格試験は引き続き資格取得対策で対応   | 3    | ドローンの利用は今後増加すると思われるため、資格取得について前向きに進めていただきたい。<br>危険物や毒劇物の資格は有用だと思う。是非取得できるよう学生への指導をお願いする。 |
|             |  |   | 《評価》<br>・R7年度アグリビジネス学科入学生1名(R6:5名)<br>・オープンキャンパスで本校農産物の加工体験やゲームによる農業経営者体験を提供  |  |      |   |      |  |
|             |  |   | 《評価》<br>・スマート農業機械の構造と取扱い等の習得、先進事例の学習<br>・カキとトマトのグローバルGAP認証を継続取得(12月5日付け)<br>・農業試験場の協力のもと、「まりひめ」を育種親としたイチゴの育種をスタートした   |  |      |   |      |  |
|             |  |   | 《評価》<br>・R6資格取得率(R5)<br>大型特殊自動車(農耕用):100%(100%)、園芸技術:100%(100%)、農業技術検定2級:20%(21%)、農業簿記3級:32%(50%)、危険物:14%(0%)、毒劇物:0%(0%)、狩猟免許(わな猟):78%(79%)<br>・園芸技術は昨年と同様全員合格、危険物は合格者3名、農業技術検定、農業簿記は昨年度より合格率低下、毒劇物は昨年に引き続き合格者0名  |  |      |   |      |  |

令和6年度 和歌山県農林大学校農学部 学校評価シート

教育目標

高度な専門知識と技術並びに幅広い視野と豊かな人間性をもった明日の和歌山県の農業を担う人材の育成

中期的目標

教育カリキュラムの充実による優れた経営感覚や実践的技術・知識をもった農業後継者と農業技術者の育成

|      |        |     |
|------|--------|-----|
|      | 直近5年平均 | 5年後 |
| 入学者数 | 16名    | 23名 |
| 就農率  | 34%    | 45% |

今年度の重点目標

- 1 学生の確保
- 2 教育活動の充実・強化
- 3 進路支援の強化
- 4 情報発信の充実

評価基準

【評価区分・5段階】  
 5:当初目標を十分達成した(101%以上)  
 4:当初目標をほぼ達成した(81~100%)  
 3:当初目標を概ね達成した(61~80%)  
 2:当初目標の半分程度達成した(41~60)  
 1:当初目標をほとんど達成できなかった(40%以下)

| 本年度の重点目標 | 現状と課題 | 具体的方策・評価指標等                       | 本年度の取組   |  | 内部評価 | 次年度以降の課題と取組                                   | 外部評価 | 外部評価者コメント   |
|----------|-------|-----------------------------------|--|--|------|---|------|---|
|          |       |                                   | 計画   | 実績   |      |   |      |   |
|          |       | ○魅力ある教育の実践(その1)<br>・スマート農業関連技術の導入 | ○自動環境制御を活用した「ミニトマト」増収栽培技術の習得をプロジェクト学習で、「ガーベラ」の高品質生産技術の習得を専攻実習を通じて実践(R3~)   | ・自動環境制御を活用したミニトマトの増収やガーベラの高品質生産の知識や技術をプロジェクト学習や専攻実習を通じて習得させた。また、自動環境制御ハウスでのミニトマトの品種比較やガーベラの鮮度保持の卒業論文として取り組んだ。  | 3    | ・環境測定データを蓄積し、予測精度を上げスマート農業関連技術の導入効果について学習させる。 | 3    | 施設の自動環境制御は高大連携に必要な技術です。スマート農業の実践について、高校と連携する機会を作っていただきたい。 |
|          |       | ○魅力ある教育の実践(その2)<br>・GAPの取組を加速化    | ○GAP演習の授業導入<br>農大職員によるVer.6審査に対応した講義・演習(合計12回)によりグローバルGAPの認証取得に必要な知識と技術の習得を行う。   | 計画どおりに実施   | 3    | ・職員の知識と指導スキルを向上させ、学生による継続認証の取得を図る             | 3    | カキの販売に関して、学生が販売単価や売り先等を主体的に決定するよう取り組んではどうか。               |
|          |       |                                   | ○グローバルGAP認証継続のための職員指導体制の強化<br>・農業生産工程管理チーム体制の整備による指導強化<br>↓<br>・学生がGAP実践の知識や技術を容易に習得   | ・職員6名が12回の講義、演習をすべて行い、GAP内容の理解と指導スキルを向上<br><br>・審査終了後も各コース長を中心に指導を継続   | 3    | ・カキのネット販売の拡大<br>・カキの輸出方法の検討                   |      |   |
|          |       |                                   | ○果樹・野菜・花き全コースでGAP農業の取組みを強化<br>・グローバルGAP.(カキ、トマト)【継続】<br>・MPS-ABC認証取得(花き)【継続】   | 認証取得の状況<br>・グローバルGAP(カキ、トマト) R6年12月5日取得(カキ継続5年目、トマト継続4年目)<br>・MPS-ABC認証取得(花き) R5年1月17日取得(継続3年目)  | 3    |   |      |   |
|          |       |                                   | ○GAP認証品の販路拡大<br>・カキの輸出版売<br>・カキの国内販売(店舗でのテスト販売)  | ・輸出実績なし<br>・カキのネット販売(JAタウン)→10月1日~10月31日<br>紀の川柿 4kg、2,500円(1ケース、12玉/2,500円/ケース)<br>・カキの国内販売(やっちゃん広場)→11月2日~3日<br>紀の川柿 197.4kg、98,700円(329袋、0.6kg/300円/袋)<br>紀の川柿 60.0kg、50,000円(20箱、3.0kg/2,500円/箱)<br>平核無 78.1kg、17,750円(1.1kg/250円/袋) | 3    |   |      |   |
|          |       |                                   | 《評価》<br>・学生自らの取組みによって認証を取得し、学生全員をGAP等を実践できる人材を育成した<br>・6名の職員が講義や演習12回の学生指導を行い、職員の指導力強化を図った<br>・JAの協力を得ながらインターネットでの販売、やっちゃん広場での対面販売ができた<br>・出荷先の選果場が輸出に対応できなかった |  |      |   |      |   |
|          |       | ○魅力ある教育の実践(その3)<br>・模擬会社の学生運営     | ○「特別講義」で店舗運営や組織運営についての知識を習得  | 2年生10名が特別講義で販売や会社経営に関する教科を学習した<br>6/4 包装デザインの目的<br>7/3 起業、事業継承に関する基礎知識<br>7/23 会計・労務管理の基礎知識  | 3    | 模擬会社の収益向上に繋がる利益の使途を社員が検討し、実施                  | 3    | 農大学生会社について、学生のモチベーションを上げる方策を一考してください。                     |
|          |       |                                   | ○模擬会社「わかやま農大学生会社」の運営を、学生が中心となり生産から仕入れ、販売までの運営を自ら行う。店舗運営を通じて、会社経営の方法や納税の必要性などを学習。   | ・模擬会社「わかやま農大学生会社」定時総会を開催 11/6<br>当期純利益232千円(第2期)<br>・出張和農市に社員12名が店舗運営 11/9・10 大収穫祭in九度山 11/23 和歌山くみあい祭り  |      |   |      |   |
|          |       |                                   | 《評価》<br>特別講義による基礎知識の習得により店舗運営や組織運営に取り組む意識の醸成を促すことができた<br>模擬会社の社員としてイベントへ出向く機会が増え、現場で接客や販売の技術を磨くことで実際の店舗運営を学ぶことができた   |  |      |   |      |   |

| 本年度の重点目標  | 現状と課題  | 具体的方策・評価指標等   | 本年度の取組   |   | 内部評価 | 次年度以降の課題と取組 | 外部評価                            | 外部評価者コメント                           |   |   |   |        |   |
|---|--|---|--|---|------|-------------|---------------------------------|-------------------------------------|---|---|---|--------|---|
|   |  |   | 計画   | 実績  |      |             |                                 |                                     |   |   |   |        |   |
| 3 進路支援の強化   | <p>○非農家出身の学生が増え就職に関する指導や就職先の開拓などきめ細やかな対応が必要加えて学生の多様化により卒業後の進路や学校生活に不安を感じる者が現れる傾向がある。</p> <p>○就職試験の時期が早まっていることから、学生の就職活動は1年生後半には準備を始める必要がある。</p> <p>○1年生における就業意識は未だ低く、早期から積極的に活動する学生は一部である。</p> <p>○卒業時の進路確定率<br/>98% (R1～R5)</p> | <p>○将来設計能力の養成<br/>・授業科目の充実<br/>・インターンシップ研修で実践</p>   | <p>○進路支援強化に向けた授業の実施</p> <p>・キャリアデザイン授業(1年生)<br/>学生が主体的に、人生と職業、キャリアプランを思索するため専門外部講師と職員連携による授業を実施</p> <p>・就職予定者には卒業後の営農モデルを設計させ、経営展開の計画性を高める</p>   | <p>・1年生を対象に進路選択の動機づけとして、就職支援に関する講義を12月まで5回実施<br/>9/2 職業理解と働く意義<br/>10/11 厚生労働省委託事業による就職ガイダンス<br/>11/27 就活に向けたスーツの着こなし(洋服の青山)<br/>12/9 就活について(HW橋本)<br/>12/20 ビジネスマナー、面接対策(HW橋本)<br/>・インターネット、情報リテラシー、消費者教育の講義を実施<br/>・1年生全員を対象に営農生活設計を年度内に作成予定</p>  | 3    | 引き続き実施      | 3                               | 就農に興味を持つよう高校生に対しても農業の魅力をPRしていただきたい。 |   |   |   |        |   |
|   |  |   | <p>《評価》<br/>・進路選択に向けた意識の醸成<br/>・ハローワークと連携し就職支援に関する講義を行うことで就職活動のスキルアップにつながった</p>  | <p>【再掲】<br/>12/9 就活について(HW橋本)<br/>12/20 ビジネスマナー、面接対策(HW橋本)</p>  | 3    |             |                                 |                                     |   |   |   |        |   |
|   |  | <p>○ハローワークとの連携強化</p> <p>○個別面談による進路指導<br/>○求職情報の常時提供</p> <p>○学校と専門カウンセラー、保護者3者による伴走型支援の実施</p>                          | <p>○ハローワーク(HW)からの講師派遣</p> <p>・求人票から見る就労条件のポイント<br/>・就職面談に有利なエントリーシートの作成<br/>・HW職員による模擬面接の実施</p> <p>○個別面談の実施(進路指導職員、担任との2者面談)</p> <p>・保護者との連携を密に学生の学力向上と進路意識の醸成を双方から指導支援する<br/>【1年生】5～6月 進路状況調査・二者面談<br/>9月 三者面談<br/>1月 HW講師による模擬面接</p> <p>・新規参入希望生へは「新規就農受入協議会」との連携を密に図り、県内の就農定着を支援する</p> <p>・5月にアンケート調査をおこない、悩みがちな学生には、保護者とカウンセラーと連携しながら、早期サポートをおこなう</p> <p>【2年生】4月:就職活動動向調査、二者面談<br/>7月:非内定者への就職支援<br/>随時:進路指導、職員による模擬面接</p> | <p>【1年生】<br/>進路状況調査・2者面談 5月14日・16日、7月18日・7月23日<br/>3者面談:10月22日、24日、25日<br/>HW講師による模擬面接:12月20日</p> <p>新規参入希望者なしのため未実施</p> <p>・面接において悩みがちな学生がいなかったことから5月のアンケート調査は実施せず、その後の面接において十分な時間を確保して相談に応じるとともに、随時学生に声掛けを行い就職活動のアドバイスを<br/>【2年生】<br/>・2者面談 4月10日<br/>・就職活動動向調査 4月から2月まで毎月実施<br/>・就職の決まらない学生に随時面談を実施<br/>・就職面接の予定している学生に随時模擬面接を実施</p> |      | 3           | ・面接や積極的な情報提供など進路決定に向けたサポートを継続実施 |                                     | 3 |   |   |        |   |
|   |  | <p>《評価》<br/>・2年生10名のうち7名が進路決定(2月28日時点)。進路未決定の学生に卒業まで支援を実施した。<br/>・ハローワーク、進路指導職員、担任による模擬面接を行うことで就職活動のスキルアップにつながった。</p> | <p>○就職ガイダンスの開催<br/>対象:1年生 時期:3月</p> <p>○ガイダンスを通じた早期就職活動の実施</p>   | <p>○本校1年生を対象に、紀北農芸高校との協同開催として企画<br/>JA、農業法人、農業関連企業等を招請し、学生の進路決定の一助とする</p> <p>○ガイダンスを機に、学生自らが企業担当者へ直接コンタクトをとり、自己PRをおこなうことで、就職活動の優位性を高める</p>  |      |             |                                 |                                     |   | <p>・3月7日に実施(参加企業 16社)<br/>農林大学校学生17名、紀北農芸高校生徒56名参加</p> <p>・学生が興味をもつ企業への働きかけを行い後押しし、早期の就職活動を支援する</p> | 3 | 引き続き実施 | 4 |
|   |  | <p>《評価》<br/>・農業関係企業16社からの説明を聞くことができ、進路を考えるための一助となった</p>   | <p>○ホームページ・SNSによる農林大学校の魅力発信</p> <p>○ブログ以外のツールによる情報を発信と閲覧状況の分析</p> <p>・県ホームページ更新30回</p> <p>・Twitterによる情報発信 30回</p> <p>・Instagramによる情報発信 30回</p>   | <p>・県ホームページ更新30回(入学試験、和農市、オープンキャンパス等)</p> <p>・Twitterによる情報発信は0回</p> <p>・Instagramによる情報発信 68回(2月14日時点)</p>   | 3    |             |                                 |                                     |   | Instagramの閲覧数を増やすため情報発信の継続と内容を検討  | 3 |        |   |
| <p>○マスメディア等を通じた情報発信</p> <p>○地域における効果的な情報発信関係機関(市町、JAなど)や地元民間企業(JR、スーパー等)を通じた和農林大情報の発信</p>   | <p>○プレスリリース回数 12回</p> <p>○広報誌 10回</p> <p>《評価》<br/>・メディアを通じて農林大学校の取り組みを情報発信</p>   | <p>・プレスリリース回数 10回<br/>(学生・研修生募集、入試、オープンキャンパス等)</p> <p>・テレビ、ラジオ、県関係誌、県公式SNS 27回</p> <p>・広報誌 6回(県民の友3、1JA、2市町)</p>      | 3  | 引き続き実施  |      | 3           |                                 |                                     |   |   |   |        |   |
| <p>○市町(経営支援課協力)、JA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載、ポスター掲示を要請<br/>26カ所(市町18、JA8)</p> <p>○民間企業へのポスター掲示を要請<br/>50カ所</p> <p>《評価》<br/>・市町やJA等関係機関に対して広報誌やホームページへの記事掲載を要請。情報発信を継続的に実施。</p> | <p>・41カ所(市町村延べ30、JA延べ11)</p> <p>・3月7日に農業関連企業16社に掲示要請</p>   | 3   | 引き続き実施   |   | 3    |             |                                 |                                     |   |   |   |        |   |